

北水研ニュース

No. 26

昭和57年2月

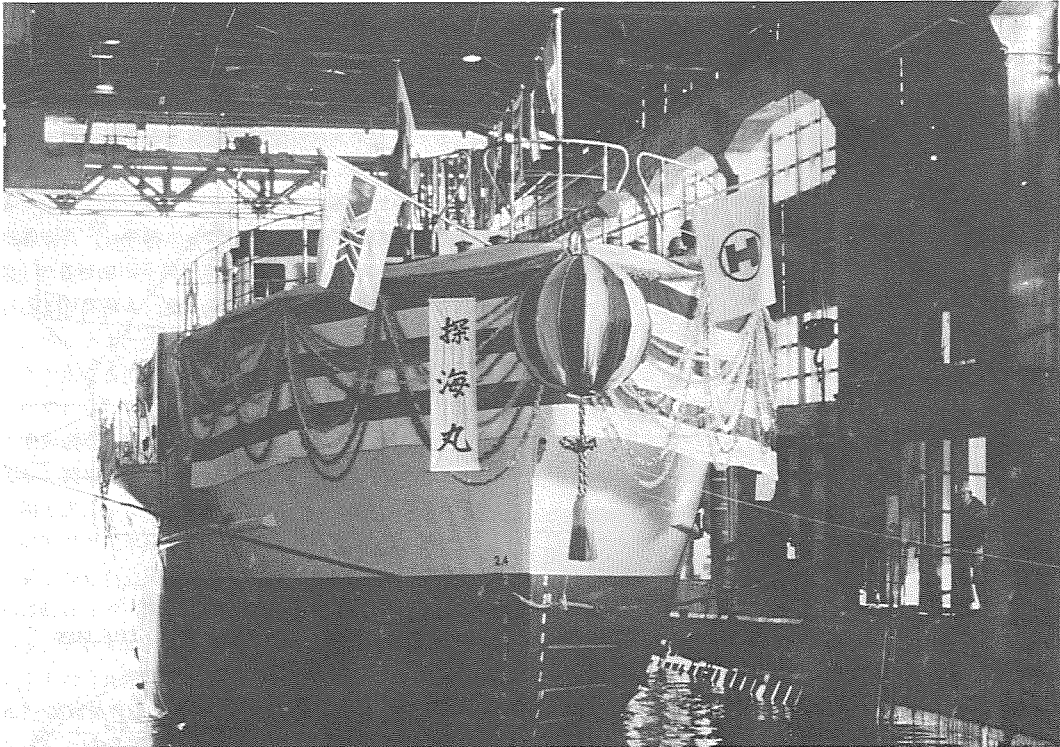
水産庁

北海道区水産研究所

釧路市桂恋116番地

電話 (0154)91-9136

郵便番号 085



探海丸(代船)進水式行わる

昭和56年12月11日、新潟鉄工所造船工場において、調査船探海丸(代船)の進水式が行われた。ふりかえってみると、昨今のきびしい予算事情下で、とにもかくにも前年度建造の日水研調査船みずほ丸と同額の予算が成立でき、仕様書が5月に完成、入札と新潟鉄工所の落札、そして息つくひまもない程の打合せ会議、

設計承認図の検討などが続いた。この間にあって、昭和56年9月3日付で建設申請が農林水産大臣により許可されている。10月21日には同造船工場にて起工式が行われ、そして進水式にいたっている。

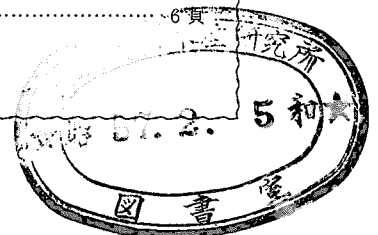
本代船は、鋼質・計画総トン数159トン・長さ30.23メートル・幅6.80メートル・深さ2.90メートル・中速

◆目

探海丸進水式行わる	1 頁
サンマの鰓腔内にみられた 寄生性等脚類について	3 頁
北水研に赴任して	4 頁
会議情報	4 頁

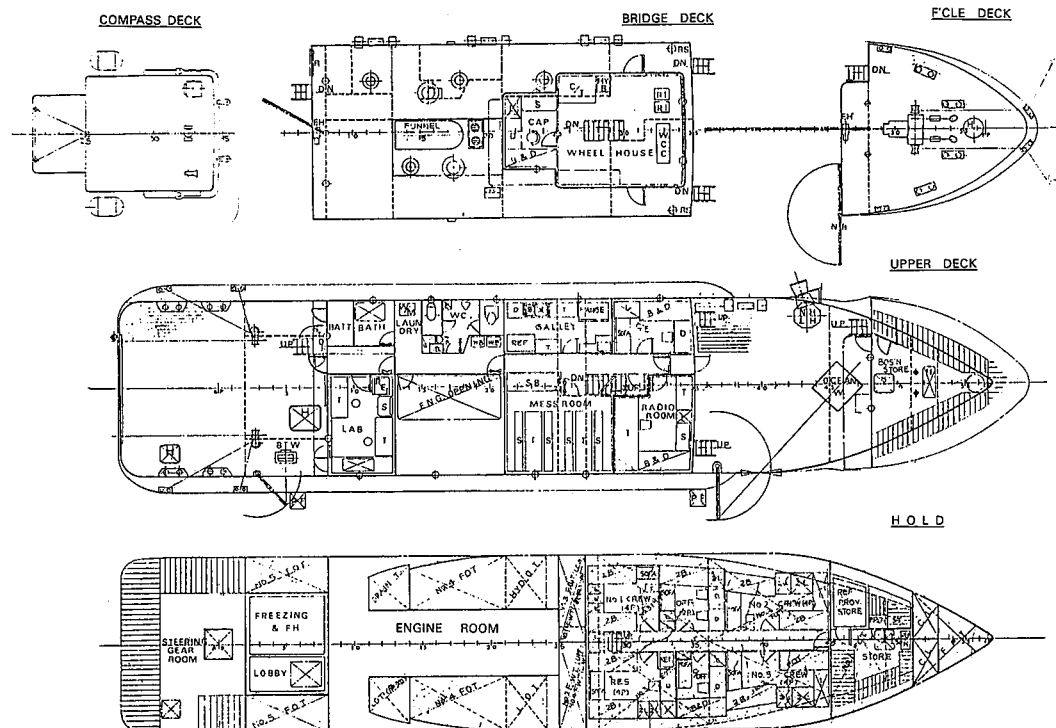
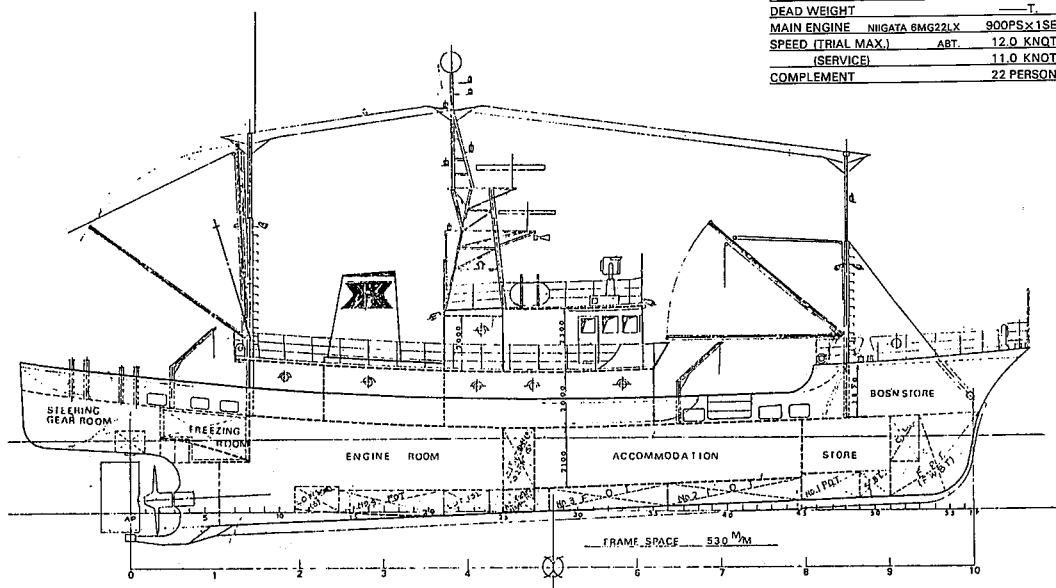
◆次

刊行物ニュース	5 頁
北水研日誌	6 頁
人事異動	6 頁



PRINCIPAL DIMENSIONS

LENGTH (O.A.)	35M84
LENGTH (REG.)	30M23
LENGTH (P.P.)	30M00
BREADTH (MOULDED)	6M80
DEPTH (MOULDED)	2M90
DESIGNED FULL LOAD DRAFT	2M60
GROSS TONNAGE	ART. 159 T.
DEAD WEIGHT	T.
MAIN ENGINE	NIIGATA 6MG22LX 900PS×1SET
SPEED (TRIAL MAX.)	ART. 12.0 KNOTS
(SERVICE)	11.0 KNOTS
COMPLEMENT	22 PERSONS



ジーゼル900馬力・最大とう載人員22名・寝室9ヶ所合計寝台数22台・食堂1ヶ所・清水タンク1ヶ所7.8立方メートル・造水装置日産1トン・シャワー付浴室などが計画されているので、現船とは比較にならないほど快適な航海生活を送ることになろう。

主な航海・調査装備関係では、レーダー2台・自動船位連続表示装置一式・デッカ・デッカプロセッサー・記録内臓型CTD・レーダーブイ・ファクシミリ・海洋観測及びBTウインチ・ステンレスワイヤー（6mm×3,000m及び3mm×2,000m）救命いかだ・電子複写機が官給品として、また科学用魚探が後日装備の予定である。今年度装備関係にはCTD水中センサ格納庫・ウォーム歯車による旋回可能な自立型グビット・起倒式観測用プラットフォーム・稚魚ネットつり上用ブーム・ネットえい航ブーム・船尾出入口壁付の13本用採水器架台・いか釣かにかご刺し網小型まき網（稚魚採集）の各種漁ろう装置があり、また、かにかごの500m以浅・以深用と、さんま・いか刺網用のラインホーラー、ネットホーラーはドラム交換式による兼用型などがその主なものである。

いずれにしても、限られた建造費のなかでの150トン型漁業調査船に見合った形での、地味ではあるが全体として調和のとれた仕様、設計となっている。

起工式にいたるまでには、本庁漁船課・船舶管理室・研究課・北水研・造船所間での各種申請書類が行きつ戻りつした。造船所からの承認申請は8月6日から12月29日までの間に306点もの青やき設計図が往復している。それらは、外板展開・船尾材計算書・承認図面訂正または注意事項対策・前後部線図・船体寸法表（計画）・部材強度計算書等からはじまって、一般配置・ボンジャン曲線図・排水量等曲線図・容積図・計画重量重心計算書・総トン数概算書・フォールスکیل・ビルジキール等々と続き、煙突・一号補機関・電気溶接機・遭難信号自動発信機・ファクシミリ・短絡電流計算書・冷凍装置・給水管・排水管・喫水塗分線及び喫水文字・魚倉防熱要領・プロペラ装置・電磁ログ・船殻・船体ギ装・空調装置・デッカ等々である。

ここまでにいたる本庁関係、特に船体・機関・無線などの建造を担当した漁船課の熱意と御協力に対しては、厚く御礼申しあげると共に、これからも益々御支援をお願いしたいところである。

昭和54年度を前しょう戦として、昭和55年度から引続いてきた北水研代船建造委員会も、代船の名称が正式に決定する段階でやっと終着駅ということになろうが、新船の有効利用、旧船の売却処分などまだ重要な課題が残されているので、なお一層の皆様の御理解を深めてほしい次第である。

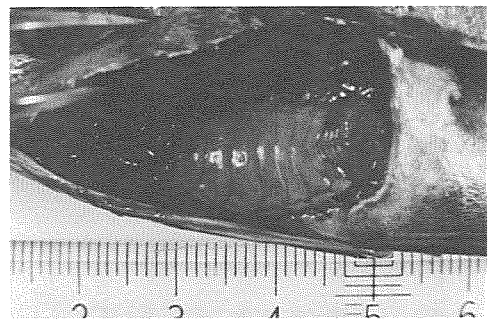
（代船建造委員長 駒木成）

サンマの鰓腔内にみられた 寄生性等脚類について

和田 時 夫

サンマの寄生虫としては、これまで日本の周辺水域からは、コベボータの一種であるサンマウオジラミ（*Caligus macarovi* GUSSEV, 体表に寄生し、円形のはん痕を残す）や、鉤頭虫の一種 *Acanthocephalus* sp.（腸管内に寄生、体は赤橙色）がよく知られている^{1,2,3)}。ところが、1981年8～10月に北海道から千島列島にかけての東方水域で採集されたサンマのうち、9標本18尾の鰓腔内から、雌雄あわせて19個体の寄生性等脚類が見いだされた。この等脚類は後述する形態や寄生状態から、有扇亜目（Flabellifera）ウオノエ科（Cymothoidae）に属するサヨリヤドリムシ（*Irona melanosticta* SCHOEDTE & MEINERT）と思われる*。筆者の知るかぎりでは、サンマからの寄生性等脚類の報告はこれが初めてである。

この等脚類は、いずれも宿主であるサンマの鰓蓋に背を向け、頭は宿主の前の方へ向けており、1例をのぞいて左右いずれかの鰓腔内に1個体寄生している。



サンマの鰓腔内に寄生する等脚類
（*Irona melanosticta* ?）の♀。

宿主は1981年10月8日、40°-59.2' N, 148°-00.7' Eで
採集、BL 291mm, BW 108g, ♀, GW 0.55g。

雌は、体長15～20mm、体色は黄白色ないし黄褐色で背面には微細な黒点が散在している。生長した個体では体は湾曲（右側の鰓腔に寄生するものは右、左側に寄生するものでは左に体軸が曲る）する。育房を有し腹面はふくらんでおり、とくに生長した個体では抱卵している。雄は、体長8～10mmで雌より小さく、体幅も雌に比べて小さい。体色は雌に比べてやや濃い。雌雄とも複眼は黒色で発達しており、胸脚の指節は鉤状で懸着肢となっている。サンマの鰓蓋はこの等脚類の寄生によりふくらむことはなく、寄生の有無は鰓蓋を持ちあげてみないとわからない場合が多い。また寄生部

位の鰓弁は欠損している。なお、寄生率(被寄生尾数/標本尾数×100)は低く、棒受網およびタモ網による採集標本についてみると2~6%であり、宿主の体長範囲は116~312mmであった。

本寄生等脚類と同一種であると思われるサヨリヤドリムシは、これまでに日本からは、1903年に横浜(宿主不明)、1904年に岡山(宿主 *Belona* sp. ダツの類)、1934年に瀬戸内海(宿主サヨリ、これによりサヨリヤドリムシの和名があたえられた)からの記載がある⁴⁾。また最近では、畑井・安元によって^{5,6)}、長崎県下でブリ稚魚・メジナ稚魚から報告されている。畑井・安元⁵⁾によれば、本種はオーストラリア、サンドイッチ島、南アフリカ、ニュージーランドからも記載されており、もともとその分布は広いものと思われる。

この寄生性等脚類については、今後、同定や寄生生態についての検討とあわせて、宿主であるサンマの回遊・生長との関係などについても検討し、あらためて報告する予定である。しかしながらウオノエ科の寄生性等脚類についての文献は少なく、十分な資料を集め得ないでいる。この点について何か情報をお持ちの方は、是非御教示下さるようお願いしたい。

文 献

- 1) 堀田 秀之(1962): 東北水研報、21、50-56。
- 2) NISHIMURA, S (1964): Publ. Seto Mar. Biol. Lab., XII(4), 295-305。
- 3) HATANAKA, M (1956): Tohoku Jour. Agr. Res., 6(4), 313-340。
- 4) 平岩 馨邦(1934): 植物及動物, 2(2), 380-384。
- 5) 畑井喜司雄・安元 進(1980): 長崎水試研報、6, 87-96。
- 6) ——— (1981): 同誌, 7, 77-81。

※: 新日本動物図鑑(中), 動物系統分類学7(上)および平岩⁴⁾の記載による。

北水研に赴任して

新 宮 千 臣

ほとんど20年近く、マグロ、カジキ類の、それも遠洋漁業資源にだけ関わってきたものにとっては、期待やら不安やらが入り乱れた赴任でした。昨年8月、霧の季節が終りかけた頃、釧路の北水研へ転勤しました。北水研では資源部の第3研究室に配属され、主にイカ類の仕事を担当することになりました。

遠洋水研当時は、どういう訳か南半球へ調査に出かける場合がほとんどでしたので、北の海についての知識は本当に無いに等しく、物の本とか人の話しから勝手なイメージをもっていただけのように思います。釧

路へ来てから目に映る一つ一つの変化に、非常に新鮮なものを感じております。8月は丁度資源部の市場調査の最中で、釧路水試と協力して実施している、週3度の早朝の聞き取りやサンプリング調査は、真にタイムリーな体験だったように思います。イワシ、スケソ一を始め連日山のように水揚げされる浮魚、底魚の流れを見ていると、この道東周辺の水域から何か巨大な腸詰みたいなのが、絶え間なく作り出されてゆくような幻想にとられます。又、quick assessment 調査の一つとして、北転船による科学魚探調査航海で北の海を垣間見る機会がありました。塩釜の沖から釧路まで、直線的に北上したこの水域における潮目の複雑な変化と、生物相の確かな変り様に強い印象を受けたものです。視覚に訴える熱帯の海的美しさと対照をなし、肥沃な水と荒々しさが相まって、北の海はきびしく、重々しく存在していました。

あまり経験がないことなので、うまく表現できないのですが、人の仕事の流れにはいくつかの節目みたいなものがあるように思われます。これは自分で作りだしたり或は外から要求される時もあるでしょう。節目の数が幾つ必要であるかは判りませんが、大切なこととして仕事は木に竹を接いだり、竹に木を接いだようなものにはしたくないような気がします。生活環境が変わり、研究対象が変わるということには、確かに戸惑いをおぼえるようです。職場が変わるということはその節目に当るのかもしれませんが、しかし、よく考えてみると、環境も研究対象も実は以前からそこにあったのだし、長い研究史の中に位置づけられているのです。要は、変わるものとか変るべきことは自分の内にあるということでしょうか。その北転船に乗って、気が落ち着かないまま読んだ雑誌の中から――

Environment to each must be

"all that is excluding me"

Universe in turn must be

"all that is including me"

The only difference between environment and universe is "me"――

observer, thinker, doer, lover,――

釧路は今厳冬を迎えようとしています。終戦までの約十年間、朝鮮の忠清南道というところで過しましたので、北国の生活にも少しづつなじみ、それなりに興味を覚えつつあります。これまで同様に御指導をお願いします。(資源部第三研究室長)

会議情報

昭和56年度 漁業資源研究会議 北日本底魚部会

日時: 昭和56年12月9~10日

場所：北水研会議室

議事

1. 開 会
2. 北水研所長挨拶
3. 研究発表
 - (1)日本海の最近のホッケ資源について
日水研 田中 実
 - (2)200カイリ体制以降の北洋底魚漁業とその資源
遠洋水研 岡田啓介
 - (3)東北海区の底ダラ類の分布量について(予報)
東北水研 三河正男
 - (4)北海道西岸及びオホーツク南西部のホッケ稚仔魚の分布について
稚内水試 佐野満広
西内修一
 - (5)根室海峡におけるスケトウダラ新規加入調査について
釧路水試 小池幹雄
 - (6)北海道周辺の春のスケトウダラの魚探調査結果について
北水研 金丸信一
 - (7)北海道周辺海域におけるスケトウダラ標識放流試験結果について
北水研 吉田久春
 - (8)根室海峡のスケトウダラの孕卵数について
北水研 入江隆彦
4. 部会議事(司会：大迫正尚)
 - (1)次期部会について
 - (2)56年度会議議事録について
 - (3)その他
5. その他
6. 閉 会

コンブ種苗生産に関する検討会

日時：昭和56年12月15日

場所：北水研会議室

1. 開 会
2. 北水研所長挨拶
3. 各種苗場の事業報告(各漁協採苗場)
4. 種苗培養試験報告
 - (1)培養タンク内における栄養塩濃度の変化
北水研 佐藤芳和
 - (2)オニコンブ種苗の生長経過
釧路水試 佐々木茂
 - (3)コンブ配偶体及び芽胞体の生長条件について
北水研 岡田行親
5. 総合討論
6. 閉 会

昭和56年度 オホーツク海域のサンマ漁況検討会

日時：昭和56年9月10～11日

場所：網走市、網走水産試験場

議題

- (1)漁況の検討
 - (イ)漁海況経過報告
 - (ロ)調査結果の検討
 - (ハ)まとめ
- (2)昭和56年の協同調査・研究について
- (3)その他

— 刊行物ニュース —

阿部深雪：1980年の北海道周辺海域の海況。1980年漁場海況概報、北水研(C. 434)

藤井浄・阿部深雪：1980年北海道南沖合(襟裳岬以東)の夏季～秋期の海況の推移と特徴。1980年漁場海況概報、北水研(C. 435)

阿部深雪・藤井浄：根室湾内の海況の季節変化の特徴。1980年漁場海況概報、北水研(C. 436)

北水研：北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計年報。1980年(昭和55年)、北水研、1981年8月(C. 437)

北水研：遠洋底曳網漁業(北洋転換船)漁場別漁獲統計年報。1980年(昭和55年)、北水研、1981年7月(C. 438)

吉田久春：スケトウダラ新規加入群量資源調査の考え方。昭和55年度漁業資源研究会議北日本底魚部会会議報告、北水研、昭和56年9月(C. 439)

入江隆彦：根室海峡のホッケについて。昭和55年度漁業資源研究会議北日本底魚部会会議報告、北水研、昭和56年9月(C. 440)

北水研：北海道周辺海域の底魚類の資源動向、北水研、昭和56年8月(C. 441)

入江隆彦：Cohort解析等によるホッケ資源評価と問題点。資源解析評価の手法に関するシムボジュウム講演要旨集、東大・海洋研、昭和56年9月(C. 442)

北水研：昭和56年オホーツク海サンマ漁況検討結果。昭和56年9月(C. 443)

北水研：昭和56年度第2回太平洋イカ長期漁海況予報。昭和56年9月(C. 444)

北野清光：異常低温現象、北水研ニュース25号、昭和56年8月(C. 445)

北野清光：宇宙海洋学、北水研ニュース25号、昭和56年8月(C. 446)

金丸信一：釧路沖で獲れた巨大なミズグコ、北水研ニュース25号、昭和56年8月(C. 447)

入江隆彦・小林時正・大迫正尚：発育段階に応じた分布回遊、成長及び食性の変化一離岸期幼魚の生態に関する研究。幼魚期及び接岸期を中心とした沖合生態調査、昭和54年度プログレスレポート、昭和55年7月、遠洋水研(C. 448)

竹内勇：放流幼魚の沿岸離脱時の海況と餌料環境、同

上 (C. 449)。

阿部深雪・藤井 淨：海洋構造並びに海況変動の解明
北海道周辺海域の季節的海況変動 (昭和55年)、
同上 (C. 450)。

北水研日誌

8. 6 釧路市白樺台老人クラブ会長山田八郎氏外30名見学のため来所。
8. 20 機械集計担当者会議開催、於北水研。
8. 21 探海丸第6次航海 (根室湾を中心とする周辺海域の海洋調査) 出港、藤井主任研究官乗船、9月5日まで。
8. 26 昭和56年度北海道周辺海域の底魚類の資源評価検討会議開催、於北水研、27日まで。
8. 26 北光丸第3次航海 (第1次浮魚資源調査) 出港、和田技官乗船、9月12日まで。
8. 28 ノルウェー国トロムソ大学水産学部水産経済学教室クヌート・ヒーン、アンデルス・デデカム両氏外学生15名来所。
8. 29 水産庁研究部研究課三村研究管理官来所。
8. 29 海洋部北野清光室長、日本・オーストラリア両国間における共同海流研究のためオーストラリアへ海外出張、11月6日まで。
9. 1 遠洋水研長崎福三主任研究官来所。
9. 3 北海道大学水産学部箕田教授外5名来所。
9. 3 別枠研究「溯河性さけ・ますの大量培養技術の研究に関する総合研究 (河川放流)」の現地検討会開催、於北海道さけ・ますふ化場。
9. 4 北海道大学水産学部増殖学科学生40名来所。
9. 4 アラスカ大学海洋所長ベラ・アリグサンダー教授外1名来所。
9. 7 厚岸郡浜中町立茶内小学校教員及び児童20名見学のため来所。
9. 8 東海区水産研究所伊東祐方資源部長来所。
9. 8 共済組合員証検認のため小関事務官帯広市へ出張、9日まで。
9. 10 昭和56年度オホーツク海域のサンマ漁況検討会開催、於道立網走水産試験場、11日まで。
9. 10 資源部小林時正技官昭和56年度科学技術関係長期在外研究員としてアメリカ合衆国へ出張、昭和57年9月9日まで。
9. 11 釧路市公民館婦人学級26名見学のため来所。
9. 17 昭和56年度太平洋イカ類資源評価検討会議及び昭和56年度第2回太平洋イカ長期漁海況予報会議開催、於釧路市商工会館、18日まで。
9. 19 東海区水産研究所川上武彦主任研究官来所。
9. 19 水産庁尾島研究部長、三村研究管理官、田村係長来所。
9. 27 探海丸第7次航海 (根室湾を中心とする周辺海域の海洋調査) 出港、藤井主任研究官乗船、10月9日まで。
9. 29 昭和56年度管理者養成研修出席のため増田年度係長八王子市へ出張、10月17日まで。
9. 29 北光丸第4次航海 (第2次浮魚資源調査) 出港、和田技官乗船、10月14日まで。
10. 1 道立新得畜産試験場職員30名見学のため来所。
10. 12 栽培漁業センター厚岸事業所開所式へ上村所長、飯塚企連室長、駒木海洋部長出席。
10. 13 指定漁業の漁獲統計調査協議会開催、於北水研。
10. 19 所長懇談会及び所長会議出席のため上村所長作並、東京へ出張、24日まで。
10. 21 探海丸代船建造起工式挙行。於株式会社新潟鉄工所新潟造船工場、探海丸加賀船長出席。
10. 22 企画連絡室長会議 (技術会議) 出席のため飯塚企連室長東京都へ出張、24日まで。
10. 25 水産庁研究所庶務課課長会議出席のため村本庶務課長波崎へ出張、27日まで。
11. 1 資源部村田守主任研究官昭和56年度流動研究員としてアカイカの資源量並びに許容漁獲量の評価・予測方法に関する研究のため東海区水産研究所へ出張、12月28日まで。
11. 10 北海道胆振支庁田村水産課長外1名来所。
11. 17 北光丸第5次航海 (海洋調査) 出港、藤井主任研究官、北海道大学青田助教授外1名乗船、12月7日まで。
11. 27 北海道管区行政監察局豊本武副監察官新規行政施策の定期調査のため来所。
12. 2 農林水産大臣官房経理課大久保営繕専門官北光丸陸電施設検査のため来所。
12. 9 昭和56年度漁業資源研究会議北日本底魚部会開催、於北水研、10日まで。
12. 11 探海丸進水式挙行、於株式会社新潟鉄工所新潟造船工場、上村所長外出席。
12. 15 道立釧路水産試験場結城了伍場長来所。
12. 15 コンブ種苗生産に関する検討会開催、於北水研、16日まで。
12. 16 北海道開発局中谷文義調査官根室湾海域総合開発事業打合せのため来所。
12. 22 改正給与法説明会出席のため香西事務官札幌へ出張、24日まで。
12. 23 根室湾海域総合開発事業調査の調査結果のとりまとめと今後の調査計画打合せ会開催、於北水研。

◇人事異動◇

昭和56年10月16日付

(北水研探海丸機関員) 農林水産技官 吉武 政己
命 水産庁白嶺丸機関員
(水産庁船舶予備員) 農林水産技官 榊 晴夫
命 北水研探海丸機関員